

# 常松大谷遺跡 つねまつおおいせき

## & 常松菅田遺跡 つねまつすがたいせき

こんにちは！  
初登場の調査担当  
M村です



### 溝に造られた木製の構造物、 その意図とは!?

常松菅田遺跡では、前号でもお伝えしたように、弥生時代中頃（約 2,200 年前）から古墳時代初め頃（約 1,700 年前）の溝が 4 本見つかっています。調査を進めるにつれ、溝に施された工夫のようすが明らかとなりました。

これらの溝の岸（肩）付近には、横板と杭による護岸（木製構造物）が造られていました。このような護岸は、溝が埋まらないための整備の一つと考えられ、高住井手添遺跡や青谷上寺地遺跡など、近年調査成果が上がっている鳥取市内の弥生時代遺跡でも見つかっています。

今回見つかった護岸をみると、最も長い横板は約 3m の長さがあり、杭もしっかりと打ち込まれています。では、ここまでして溝を守ろうとした理由はいったいなんだったのでしょうか。まだ未調査のエリアに、当時の集落があるのでしょうか。はたまた、この溝は田んぼに水を引く重要な施設なのでしょう。今後調査が進み、これらの溝やその周りの様子もさらに明らかになることによって、この溝を整備した真の理由に迫れるかもしれません。

### 買い物できなくて困った？

右はお金の写真です。このなかに先日、下坂本清合遺跡からみつかったものがありますが、わかるでしょうか？ わかりますよね。右上のお金が今回みつかった「元豊通寶」という中国の北宋のお金です（ちなみに残りの 2 つは担当者のポケットマネーです ^\_^）。鎌倉時代から室町時代にかけて、日本では国内でお金をつくらず、中国のお金を輸入して使っていました。今回、昔の人が落としたお金を、数百年の時を経て再び人が手にしたことになります。交番に届けるべき？



今後はどんな「落とし物」が見つかるでしょう。



## 下坂本清合遺跡 しもさかもとせいごういせき



「元豊（げんぼう）」とは、中国の北宋の元号で、1078～1085 年の 7 年間続きました。

# 鳥取西道路の遺跡を掘る!

第 50 号 2013 年 6 月 24 日

遺跡を発掘していると、よく「どのくらい古いものなの？」と聞かれます。遺跡の価値は古さで決まるわけではないけれど、遺跡や遺物はやっぱり古ければ古いほど興味をひかれませんか？

平成 25 年度に発掘調査を行う遺跡の位置



### 湖山池沿岸域最古の土器!?

右の写真は、昨年度調査した高住井手添遺跡で掘り出された出土品。何の変哲もない小さな土器のかけらに見えますが、実は今から 1 万年近くも前の、縄文時代の早期と呼ばれる時期（約 10,000～6,000 年前）に使われたものなのです。

鳥取市内で見ついている最古の出土品は、縄文時代の始まった頃（約 12,000～10,000 年前）の石器ですが、たった 1 個しか見つかっていません。続く縄文時代の早期の遺物が出土した遺跡もわずかで、湖山池の近くでは今まで一つも見つかっていません。ですので、この土器は鳥取市内でも最古級、湖山池周辺に限れば最古の出土品と言えます。

これまでの発掘調査で、湖山池周辺にはたくさんの縄文時代の遺跡があることが分かってきました。縄文時代の湖山池は日本海とつながっていたので、漁をなりわいの一つにしていた縄文人にとって、暮らしやすい場所だったので。ただ、今までに見つかった遺跡はほとんどが縄文時代の中頃（約 5,000～4,000 年前）以降のもので、それより古い時期のことはあまり分かっていませんでした。高住井手添遺跡の縄文時代の早期の土器は、湖山池と人間の関わりがいつはじまったかを知る上でとても重要な出土品と言えます。



高住井手添遺跡出土の縄文時代早期の土器

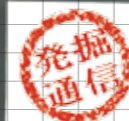


完全な形に復元できた早期の土器（智頭町智頭枕田遺跡出土）

(公財) 鳥取県教育文化財団  
調査室

〒680-1133  
鳥取市源太 12 番地

TEL : 0857-51-7553  
FAX : 0857-51-7550  
メールアドレス :  
tottori-kyobun@kyobun.  
sakuratan.com



今年は記録的な早さで梅雨入りしたのに、空梅雨の気配。このまま猛暑に突入するのでしょうか( ^\_^ )。夏本番になれば、調査も山場。発掘現場でも暑さに負けにくいくらい暑い発見が待っているかも…。ご期待ください!

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

# 東桂見遺跡

ひがしかつらみいせき

## またまた縄文時代の土器が出土しました！

昨年度に引き続き、現在の地面から約4.3m下（標高約3m）の地点から縄文時代前期末（約5,000年前）の土器が見つかりました。多くは小さく割れた破片ですが、土器の表面には縄でつけた文様がきれいに残ったかなり大きい破片もありました。現地での作業が終わったら、どんな形に復元できるか楽しみです。

まだまだ下に深く掘り下げて調査を行いますので、もっともっと古い時代の土器や石器がでてくるかもしれません。



見つかった縄文土器



# 良田中道遺跡

よしだなかみちいせき

## 昨年度調査した流路の下流部分を確認！

調査区（1区）全体にほぼ広がって堆積している細かい砂の層を取り除くと、黒っぽい土で埋まった溝が姿を現しました。これは昨年度の調査（2区）で見つかった古墳時代の川の跡のつづきです。今年度の調査で下流部分を確認することができました。

昨年度の調査では、この川の下にさらに別の大きな川が流れていて、川の周辺からは縄文土器が出土しました。

今後の調査で徐々に良田中道遺跡の昔の風景をさかのぼって明らかにしていきます！



昨年度見つかった川の跡の下流部分



遺跡周辺では田植えが終わり、カエルたちが大合唱しています。中には調査区に迷い込むカエルも。。



# 金沢坂津口遺跡

かなざわさかつぐちいせき

## & 松原田中遺跡

まつはらたなかいせき

## 田んぼの下には また田んぼ！



### ▲中世の田んぼの跡（4区）

田んぼに入れる水量を調整する水口みなくちも見つかりました。まだらに見えるのは、ぬかるんだ田んぼを歩いた当時の人間や動物の足跡です。

### ▲あぜの下から見つかった補強材（3区）▶

あぜの下から細い竹を等間隔に打ち込み、横木を渡した施設が見つかりました。ぬかるみやすいので、畦を造る時に崩れないように補強したものでしょう。



# 松原田中遺跡

まつはらたなかいせき

## （1区）

## 弥生集落の出現に期待！



### ▲松原田中遺跡から吉岡温泉街を望む



勾玉や管玉のほか、ガラス製の小玉も見つかりました

熱心な遺跡ファンの中で「あそこは出るぞ！」と噂されていた松原田中遺跡。他の調査区に遅れることほぼひと月、満を持して本格的に調査が始まりました。

今回の調査地の西方で行われた平成22年度の調査では、弥生時代前期から古墳時代前期にかけての田跡や住居跡が見つかり、玉作りを行っていたことが分かる貴重な出土品も数多くありました。今回の調査では、どんなお宝が私たちの前に姿を現すでしょうか。続報をお楽しみに！